令和５・６年度　第４回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議

議事要旨

日時　　令和６年５月 31 日（金）午後１時半から午後４時まで

場所　　新蒲田区民活動施設第１・２集会室

出席者　名和田委員（会長）、倉持委員（副会長）、石垣委員、海老澤委員、
加藤委員、鴨志田委員、小林委員、豊島委員、野川委員、広田委員、
山本委員
※村上大森第四中学校校長（中野委員代理）
※大島委員、中野委員、溝口委員欠席

（役職・50 音順）

１　開会

（１）会長挨拶

年度が改まり始めて会議となる。本年もよろしくお願いしたい。生涯学習を切り口にコミュニティ政策を進めていることにとても関心を持っている。本日は、いろいろ考える材料が与えられているので、ぜひ委員の皆さま方のご知見、経験を生かして、活発な議論をお願いしたい。

（２）地域力推進部長挨拶

４月から地域力推進部長に着任した。大田区においては、先ほど会長からコミュニティという言葉があったが、大田区ではこれを地域力とし、区における重要な柱と位置付けている。昨年３月に新たな大田区政の指針となる基本構想を策定し、その中でも地域力を高めるということを基本目標の第一に掲げている。今年度は、それを実現するための基本計画策定を進めている。

おおた生涯学習推進プランについては、計画期間の３年目を迎え、この中で地域における学びの場の拡充ということが焦点となっていると認識している。ここで議論いただいたことを、先ほど申し上げた区の基本計画に大いに反映していきながら、区政全体の推進を図っていきたいと考えている。活発なご議論をお願いしたい。

（３）会議の公開について

推進会議設置要綱第７条に「策定会議は、原則として公開とする。ただし、１　公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められる場合、２　特定の者に不当な利益又は不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、３　会議の内容に個人情報が含まれている場合は、会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議の内容には、それらに該当する内容は含まれていないため、本日の会議は公開とする。会議の内容については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ区ホームページに公開する。

２　議題

（１）令和５年度取組状況報告

【会長】

事務局から説明をお願いする。

【事務局】

資料に基づき、説明。

【会長】

令和５年度の取組状況報告は事前に郵送されていた。毎年の取組状況報告を受け、意見を述べるというのがこの会議の重要な任務の一つなので、時間を取って意見交換、質疑を行いたい。

【委員】

・　昨年と同様のまとめ方で、資料としてはきれいにまとまっているが、正直、生涯学習という学びということで、全体的に真面目、固いという感じがしている。また、めり張りがよく分からなかった。説明を聞いて、若い人たちもこういうような生涯学習に関心持っているとか、色々な部署の職員を集めてワークショップして、どうこの学びを中心にやっていくのかということを考えるといった取り組みもやっているので、そういうトピックみたいなこととか、区民にアピールしたいようなところもどこかでまとめて書いたらよいのではないか。

・　一般に、学びというのは真面目というか、固いという感じもするので、楽

しさや遊びの感覚というか、そういうのも必要。スポーツや文化的な活動を通じて、新たな発見とか視野を広げるというのも大きな目標だと思うので、将来に向けての記述も何か出したら良いと思った。

【事務局】

委員がおっしゃたように、計画の報告ということで若干固いまとめ方となっている。２０代、３０代の参加者が多く参加したワークショップなどを開催しましたので、そういう話題も盛り込んだ方が、区民の皆さんの学習が広がっているということがアピールでき、より生涯学習の認知が広がると思う。ご意見に感謝する。

【会長】

これは公式の、まさにこの会議に出すための報告書なので、少し固いのはやむを得ないが、説明で少しめり張りをつけていただいたので、わかりやすくなった、ということでよいか。さらにご意見、ご質問など伺いたい。いかがか。

【委員】

・ 基本目標の地域の学びを支える環境整備ということで、大田区の生涯学習サイトの閲覧数が令和４年度よりも令和５年度のほうが大幅に増加したということが先ほどあった。広報というところでは、一見大幅に増加したということで、幅広く認知が増えたと思うが、最初の基本目標１のところの生涯学習の実行状況のところで、令和３年度よりも４年度、５年度のほうが低下しているとあった。認知は増えたものの、やっぱり生涯学習を実行している人たちが増えてないということは、認知しているが、実行まで移せていない、ここに何か課題があると思われる。皆さんの意見を聞かせていただきたい。

【会長】

データの不均衡について、それをどう読み解いたらよいか、という問題提起をいただいた。事務局から何かコメントはあるか。

【事務局】

（生涯学習の実行状況に係る割合について）生涯学習という認識の部分にあるのではないか。この件については、昨年度の実行状況の結果が出たときに大島委員に相談し、内閣府で行っている生涯学習の世論調査について教えていた

だいたこともあった。設問の仕方によって、結果がだいぶ変わることがある。令和４年度から５年度で実行状況が微増したのは、生涯学習の定義「生涯学習というのはふだん行っている運動だとか自分の趣味活動を行っていること、サークルの仲間と活動していることも生涯学習に当たりますよ」ということを調査票に追加したからと推測している。区民の皆さんは、生涯学習に含まれる活動はしているが、それを生涯学習と認識していない、今、委員のおっしゃった認知と結びついてないところが調査の結果で表れていると感じている。

【会長】

このデータだけで何か言うのは難しいかもしれないが、日常的なご経験との関係でお気づきになることがあれば。多分事務局が取りあえず慎重におっしゃったように、設問の仕方でかなり変わるというのはあると思う。私自身も経験がある。ただ、もし生涯学習を実行している人がそれほど増えてないのに、ネットを通じた認知度が上がっているとしたら、そこに豊かな可能性があるという前向きな結論を読み取るべきではないかと。そういう方向性についてもこの状況報告の中に書いてあったように思う。もっと知ってもらって、きっかけをつくりさえすれば、新たに参加してくれるような可能性も、「学びのきっかけ講座」の部分に記述があるので、その方向で解釈できるのであれば、とても良いと思う。

【委員】

- （大田区生涯学習ウェブサイト閲覧数について）ＰＶだけではなく、ページの滞在時間も確認したほうが良い。ＰＶだけだと、何か突発的な理由や、検索エンジン含めたところのウェブ上の都合で増えているということが否定できない。ほかの基準で見るのが可能であれば、また違う結果が出るのではないかと思った。

【会長】

ページの滞在時間については、どうか。

【事務局】

ページの滞在時間も毎月確認はできる。次回、10月の会議でお示しできるように準備する。

【委員】

・　アンケートのやり方を少しでも変えてしまうと、あまり比較できなくなるのが一般的。やはり定義をきちっとしておいてやらないと、漠然とした形で、生涯学習やっていますかという質問に対して、こうこうこういう生涯学習やっていましたかと聞くのとでは全く違う答えになる。その辺のところをきちっとやるのが必要ではないかと思う。あとは、ネットで見たというのは、何人見たのか、何回見たのか、どちらか。それから、何人の訪問か。同じ人間が何回も見ていて、それで７万回になったからといって、あまり意味はないということになるから、そういうところも考えたほうがよい。それで、１点質問がある。注目指標のところで、令和３年度の数字が出ていて、目標となっているが、これはどういう目標を設定したのか。

【事務局】

プランの策定時には、指標は数値で取っていくというのは策定会議で合意したが、目標数値はあえて定めずに、毎年上昇していくことを目指すという形とした。

【委員】

・　そうすると、このペーパーで出ている目標というのは何を言っているのか、多分、読み込めなくなる。その辺のところは明確にしておかないと、目標がもしくは基準値であれば、基準値はここだと、こうこうこういうふうな理由で設定したと言わないと難しいと思うが、これは、大変難しい。だから、全部やっちゃうということではなくて、言葉を変えたほうが誤解ないと思う。

【会長】

プランの策定会議で、私も関わったが、目標の数値をばしっと決めるというのはなかなか難しいところがあり、現状よりも増えるということを目標とした。そういうことで、こういう評価の仕方となっている。

【委員】

・　それであれば我々のほうは、スポーツ参加率とか、実施率を様々なところで調べなくてはいけないということで調べる。そうすると、おおよそ国が何％に設定しているとか、あるいは東京都が何％だとか、ある意味での基

準がある。同じようなことをするのであれば、国の指標で何％と言っているだとか、あるいは東京では何％を求めているというのが言ったほうが比べやすいのではないかと思う。

【会長】

中には参考数値みたいにして、ほかではどういう水準で、どういう数値を目標にしているとか、そういう情報があったら、我々も考えやすいと思うので、検討いただきたい。その前におっしゃった件についてはどうか。

【事務局】

ＰＶ数のほかに、先ほど委員から質問いただいたユーザー数も取っている。例えば今年の４月のＰＶ数は３万２，６４０であったが、ユーザー数が６，３４７人であった。先ほど報告した令和５年度は、約６万７，０００人に利用いただいたというのは、そのユーザー数の合計になっている。

【委員】

・　基本目標については、注目指標が設定され、定性評価と今後の方向性のところで、課題も記述されているが、重点的取組については、基本目標を横断した形になっているせいもあるかと思うが、課題や、こういうことについてはもっと見直しをしていかなければいけないという記述がなく、現状こうなっていますと、ここまでできましたという記述にとどまっている気がするが、この辺のところについてはいかがか。

【事務局】

縦断した取組であるため、前段に書いてあることとなるべく重複しないよう記載内容を整理した。このため、見直しや改善に向けた記述が不足していたと思われる。来年度以降の取組状況報告を作成するときは、課題に係る記述を膨らませたい。

【会長】

重点的取組は、項目横断的なものなので、今回の報告書では重複を避けたということだったが、もう少し重複を恐れずというと、今度はかえって煩雑になるが、そこは事務局によいバランスを考えていただきたい。

【副会長】

今日の報告では、定量的評価を中心に端的に報告いただいたが、資料では、

お話にあった定性評価とか、今後の方向性についても興味深く読んだ。

指導員さんが各センターを回って、相談会を実施したり、相談員さんと支援をしたり、あるいは講座を実施したりというのが、全ての基本目標について少しずつ影響を与えているというように思った。相談数の増加にも好影響を与えていると思った。一方で指導員さんが、行ったり来たりする形でサポートするっていうところで、そういう量的な拡大だけじゃなくて、質的なというか、人的なサポートっていうのを一定程度、じわじわと広がるっていう部分を実感としては感じつつも、取り組み始めてみて、課題みたいなことが今のところで見えてきている部分があれば、教えていただきたい。

【会長】

今の質問の件は、後で報告いただくことになっており、非常に今日楽しみにしている。今、副会長からコメントいただいたが、私からも二、三点申したいと思う。（取組状況報告書）６ページにあった学びのきっかけ講座について、かなり大きな成功を収めたように思う。先ほど統計の数字のある種の不整合をどう読むかという話があったが、まさにこういうきっかけ講座が求められているとすると、次年度以降、その推移がどうなるのか注視しなければいけないと思った。

それから、７ページの保育付き事業について、これは結構大変なことで、なかなかお金もかかるし、できないというところがあったかと思うが、そこは結構、大田区の場合はきちんとしているので、この点も非常に評価できるのではないかと。また、（まなビバについて）ずっと取り組まれてきたようだが、長年にわたってそういった分野に関わっておられる、これも貴重な取組だと思った。

また、いわゆる区民活動団体との交流も行っているし、それから、区民活動をコーディネートするような人材の育成も行っている。これも非常に重要なところだと思う。だから、ワークショップなんかにも地域福祉系の人が来たりするのかと思った。

私は昔、広い意味の区民活動団体の調査のデータを読み解いたことがあって、区民活動団体、実際に活動されている方々と学んでいる方々、生涯学習団体等、やっぱり施設ニーズがかなり違う。生涯学習団体は、施設が足りないっていう

ことに非常に大きな不満を、かなり整備が進んだ今でも思っておられて、それに対して、実践活動を現にしている方々は、もう少し機能的に使いたいというニーズがあるなど、結構ニーズが違っていたと思うが、そういうニーズに応えるのであれば、文化センターの運営なんかももっと柔軟化していく必要があると感じている。具体的に私、文化センターの運営の仕方を存じていないので、抽象的な言い方になるが、そういうことを感じた。

最後に、生涯学習センター、大田区消費者生活センターの２階にある小さいスペース、あそこをどうするか、あそことは限らないと思うが、どこかに移転してもいいかと思うが、ああいう全区的なレベルの相談コーナーをどうしていくかということについても、恐らくこの会議でいずれ議論すべきことだと思う。私の個人的な趣味から言うと、ああいうとこをちょっとカフェ的にしつらえて、気軽に寄れるようにするというような、そういう方向性で考えるといいと思っている。丹念に読むと、非常に情報が多くて、なかなか充実した報告書であったなというふうに感じている。

これで、この議題は以上にしたいと思うが、もし発言を忘れていたとか、躊躇していたとかいう方いらっしゃれば。（発言なし）

では、次の議題（２）に進みたい。議題（２）は、地域の学びの場の基本的な役割ということで、事務局から説明をお願いする。

（２）地域の学びの場の基本的な役割

【事務局】

資料３に基づき、説明。

【会長】

第３回会議でキーワードとして合意をした、地域の学びの場の役割をもう少し分かりやすい言葉に直したということであった。文化センター、図書館、生涯学習センターで共有する重要な部分だが、事務局からの提案について、意見をいただきたい。前回の続きという面もあるので、少し思い出して意見をいただきたい。文化センター、図書館、生涯学習センターと具体的にそれぞれの場を考えて、キーワードを読み解いていただくというのでもいいと思うがどうか。副会長、いかがか。

【副会長】

次の議題（３）と一緒に考えては。

【会長】

具体的な材料がないと、これ以上考えにくいということであれば、次以降の議題の中で考えていくということでよろしいか。

それでは、次の議題（３）、文化センターでの現在での取組ということについて紹介いただくが、資料３ページに前回、それぞれの施設での実施状況について整理した表がある。社会教育の専門家である社会教育指導員が定期的に訪問するということを、この間実験的に試みてこられたが、その結果、どのような変化があったかということについて具体的にお話いただくことになっている。

（３） 文化センターでの現在の取組

【事務局】

実際に文化センターで地域学習コーディネートを行っている社会教育指導から報告する。資料３ページの一覧で×または△となっている要素についても、指導員が定期的に出向くことで一定程度改善、補完することができているか、そういった視点でお聞きいただきたい。

【社会教育指導員】

昨年度、地域学習コーディネートということで、大森地域にあります美原文化センターに年間およそ５０回程度出張したので、その内容について報告する。

私以外にも２名の社会教育指導員が、調布地域の嶺町文化センター、また、蒲田地域の糀谷文化センターにそれぞれ出張している。大田区の文化センター１１館は、規模・利用団体数・周辺の地域の様子などかなり違っており、身近な地域の学習拠点にしていくという方策や具体的な取組について館や地域の実情に合わせて行う必要があった。

地域それぞれの取組もあったが、共通して学びのきっかけや学習機会の提供ということで、生涯学習講座や生涯学習相談会を実施した。文化センターを会場に事業を行うことで、これまで文化センターを利用したことのない方、新規の来館者を呼び込むことができた。来館した方には講座の対応、その日のその講座のことだけではなくて、文化センターではこんな活動がありますとか、文

化センターには会員募集をしているサークルのポスターが貼ってありますよとか、何か始めたい、何かやってみたいというときに、どなたでも文化センターを活用できますよということなどを直接案内することができた。文化センターで、美原においては、生涯学習相談会を行う日に活動しているサークルに協力をいただき、見学や体験会などを開催した。ふだんサークル活動をしていても、新しい人が入っていくのが難しいので、こんな活動をしていますよ、よかったらのぞいてくださいということで、相談会をやっている日にはサークルの見学、体験もしていただけるようにしつらえた。これをきっかけに、昨年度６人の方がサークルに入会した。

また、ロビーでポスターを眺めている方に話しかけると、ほとんどが生涯学習相談につながるようなお話に発展した。施設、文化センターの職員も来館者に話しかけたり、何か相談に対応したりという様子、もちろん見られるが、この館での活動情報を持っていても、なかなか周辺施設での活動情報を持っていないので、例えば囲碁をやってますかというと、うちの文化センター、みんな高齢になっちゃってやめちゃったんですよ、そうですかで終わってしまう。４００メーターぐらい行った別の区民施設では囲碁のサークルやっていますみたいなこととか、そうしたことを社会教育指導員が日頃から情報収集をしているので、そうした情報、相談の対応がいつでもここにいて対応できればとよいと感じている。

利用されている方からは、徐々に文化センターまつりの重いものを運ぶお手伝いとか、いろいろ顔を合わせるうちに、次、あなたに会ったらちょっと相談したいことあったのよというふうに声をかけていただける機会が増えてきた。次会えたらと言ってもらうが、不定期にしかいないと、利用する方はサークル活動のある曜日、時間帯決まっているので、なかなか一致しない。このため、なかなかお話を伺うチャンスがつくりにくいということもあった。

事業の開催とかヒアリングを通じて利用団体の方、サークルの方や地域の方、あとは地域にある文化センターのそばにある別の図書館であるとか、地域包括支援センターであるとか、そういったところの職員との関係づくりをして、学びのきっかけ・継続を支援すること、つながりづくりなどをしている。

機能の面では、どこの文化センターの中にも、中に入ってくだされば、サー

クルの情報があったり、学習成果の発表の展示ですね、いろんな作品が展示されたりっていうことがあるが、なかなか中に入って何があるのかっていうことを外向きに発信されていないということがわかってきた。また、区内で集められてくるチラシ類も分類されずに置かれている状況もあり、学びに関する情報がやや探しにくいというふうに感じていた。

大森地域では、昨年度から近隣の図書館、地域包括支援センターの職員などともいろいろと協力をして、情報交換を行っており、６月以降、大森東図書館では、美原文化センターのロビーで月替わりの展示をしている。この情報を図書館でも発信してもらう協力体制をつくっている。また、ロビーの展示だけではなく、美原文化センターで活動するサークル、例えば健康体操のサークルがありますというのを、健康体操に関する本の書棚のところに、読むだけではなくて、やりたくなったら文化センターへ行ってみませんかというような、図書館を利用する方の学びの次のステップへ行くような、そういったことを促すようなこともできないかということで、相談・協力いただいている。

（要の人の育成について）文化センターの利用者連絡協議会というサークルの代表者たちの集まりもあるが、これも１１館全てには設置されていない。加入団体の減少や役員の方の高齢化など、課題もたくさんある。それでも、今年は文化センターまつりだけではなくて、より地域の人に文化センターの活動、サークルのことを知ってもらうような企画も始めたいということで、意欲的に取り組もうという館もある。

利連協の役員さんからは、かつて利連協が文化センターで開催する講座について、その中身や講師探しに職員が相談に乗ってくれたという話を聞いた。専門職として、何か新たな利用者とか団体を生み出す活動、これを支援できる体制を引き続き整えたいと思っている。

【会長】

地道にこの間、活動されていたことを生に聞くことができて、大変よかった。せっかくの機会ですので、質問等々ありましたら是非お願いしたい。

【委員】

- 今回話された指導員は、その地域のことをよくご存知の方で、かつこういうコーディネーター機能というか、人との接し方が上手な方が対応されて

おり地域に関しては、やっぱりスムーズにいろんな人たちと状況に応じて、行政の中でどことどういうことをつながったらいいとか、いろんな情報をお持ちの方がやる場合は特に問題ないと思う。しかし、地域の継続性ということを考えると、地域の人をコーディネーターとして育てるという必要があると思う。また、コーディネーターはやっぱり個人個人の適正によると思うので、やっぱりそういう能力を高めるための教育や人材育成が重要だと思う。

【会長】

大変重要な論点。コーディネーターには、どういうスキルや専門性を求められるのかなという、ぜひさらに議論を深めたいと思うが、差し当たり社会教育指導員への質問をお願いしたい。副会長いかがか。

【副会長】

指導員さんの専門性は、すごいと思いながら伺っていた。社会教育の専門性というか、地域の専門性というか、この１年間の活動の前提となるご経験、情報収集というかがあるように思ったので、どのように地域情報を収集したり、地域の人とのつながりをつくってこられたのかっていうところを伺いたいと思った。最後のところで、利用者連絡協議会や団体さんのお話も伺ったが、今なかなかこういうところも難しいと伺っているので、何か補足っていうところがあれば、問題意識も含めて伺ってみたいと思った。

【社会教育指導員】

地域の情報収集をどのようにしているのか、また、つながりをどのようにつくっているのかというところについて、個人的に申し上げると、２５年ぐらい前、中学生の頃にジュニアリーダーという、地域の活動をしておりまして、美原文化センターまつりの準備とか本番っていうのも、２５年ぐらい前には経験していた。やはりそういう地域の活動を通じて、青少年委員さんであるとか、青少年対策地区委員会の方々、自治会・町会の皆さんとのつながりがあって、地域に育てられたところがあった。

美原文化センターに昨年度行ってからは、ただ、活動している団体の方、団体の状況を把握するというところに注力したので、まだ周りの状態だとか、つながりというのは実際にないが、どのようにお話をお聞きしたらよいかという

ところは子供の頃の体験なども役に立っている。

地域の情報収集については、生涯学習相談会を年間に何度も開催しているが、相談にいらっしゃる区民の方がどういったことをお知りになりたいのかということを度々お聞きする中で学んできたというか、それを参考にしながら、どういったことをお知りになりたいのか、でも、こちらで全てを把握できるわけではないが、美原文化センターを中心に、大森東図書館、大森西区民センター、こらぼ大森とか、幾つかの区民施設が周辺にあるが、そういったところではどういう人がどんな活動に参加できているのか、また、参加しにくくなっているのかというところを施設のほうに出向いてそれぞれの職員から情報収集をしていた。

利用者の連絡協議会も、今７館にあるが、この全体をまとめて、大田区の文化センター利用団体連絡協議会連合会というのもあります。ただ、それぞれの館で、「文化センターを利用している私たち」というようなアイデンティティを持ちづらくなってしまった経過も、この間、大田区にはあったと思っている。単に貸館として部屋を借りて活動している状況だと、この館で活動している私たちで何かしようよという発想になりにくいというのは実感している。

ただ、美原文化センターだけに関して言えば、２５年、３０年続けてサークル活動をしている団体が多くて、美原でやっているご縁だから、私たちで何かしましょうよというようなプライドとかつながりとかがあって、心強いと感じている。

【委員】

- 追加で思い出したが、今地域の中で活動している人は、地域内の自分たちの知っている仲間だけのことしか興味がないということが多い。外部からコーディネーターとして人が入るということは、地域の中で活動している人の視野を広げる、つなぎ先を広げるという、そういう役割もあると思う。外部の意見を聞くというか、外部の刺激を与えるという意味でも、コーディネーターというのは必要だと感じた。

【会長】

それに関連して、先ほどの（社会教育指導員の）お話の中に、文化センターに入ってくる、入る前のところ、そこに課題があるのではないかということも

触れられたように記憶しているが、それとの関連で、今委員がおっしゃった外部の人にどうやってアプローチできるかっていう、そこについて何か考えはあるか。

【社会教育指導員】

外部の人がというところで、個人的には２５年来地元でというようなお話をしましたけれども、ほかの社会教育指導員で、嶺町や糀谷に行っておる者は大田区民ではありませんし、大田区で活動をしてきたということでもない。当然、社会教育指導員という専門職として地域に度々顔を出すとか、いろいろな場面で関わりを持っていくというところで、地域とのつながりづくりをしている。

新しい人にどう入ってきていただくかという点について、文化センターを会場にした講座にまず来ていただくっていうのは重要だと考えている。「（文化センターに）入ってよかったんだ」といった感想をいただいたこともある。文化センターの近所に住んでいる人でも、中でサークル活動をしているらしいということは分かりながらも、入っていってよいかどうかというところで、躊躇しているといった声も聞いている。やはり文化センターが中で何をしているのかということが、本当に発信されていないと感じている。文化センターまつりというのが年に一度あるが、そちらには館ごとに数千人来場があって、そこを経てサークルに入ることにしたという方もいる。そういった学習成果の発表をする場とか、学習成果の発表をしているということが、もっと地域の中に浸透してくるとよいと感じている。

【委員】

- ユーザー目線でお話を伺っていた。以前、他区でゴスペルのグループに入っていたが、最初、ホームページで見て、入っていいものなのかどうなのかとても緊張した。見学とか体験会に１回でもいいから行ってみようと参加したのが、参加のハードルを下げたことを思い出した。コーディネートされる方がいるのであれば、地域の団体が単体で発信しにくい声をまとめて一覧化してもらえると良いと思う。
- 情報の発信の仕方で、図書の近くに情報があると連鎖していくという点について、大きな書店では、例えば美容のコーナー、美容に関する本の近くに美容家電が置いてあったり、クッキングの本の近くに調理器具や食品が

置いてあったりっていうように連鎖させている。例えば、囲碁、将棋の本の近くに、区施設でやっている囲碁、将棋などの紹介、ポップアップのようなものがあると良い。また、池上の新しい図書館は、今までにない層の方たちが利用している感じがするので、例えば新しい方を獲得するときには、そういうところに注力するといったこともあって良い。

・ 自治会は、高齢化、それから人材不足に悩まされているあちこちの文化センター何か所か見たことがあるが、特に文化センター祭りはとても盛大で、こんなに若い人がいっぱいいるのだと感心する。ぜひそういう人たち自治会の役員になって自治会の活動もやってもらいたいと思う。何とか地域のつながりをつくろうということで運動会などをやっているが、自分たちだけでやろうとしている。文化センターで活動している人たちとも協力して、自治会・町会という生涯学習の一つの活動として、大田区民が仲良く良い地域になるようにこれからもがんばっていきたいと感じた。

・ 大田区のクールスポットの取組は、過去から継続的にやっているのか。それとも今年度からか。

【事務局】

少なくとも昨年度は実施していた。（事務局補足：５月から10月までの期間、区立施設をまちなかの涼み処（クールスポット）として開放。平成25年度から実施。）

【委員】

・ クールスポットの取組も、文化センターの来館者を増やすに当たって、一つの切り口にはなるのではないかと思った。例えば池上文化センターは、駅から歩いて４分ぐらいだが、お子さん連れも多いところ。これから暑い時期で、もしそこのところでベビーカーと一緒に少し涼めるような状況というのが積極的に作れるのであれば、地域の方たちが暑い日本を逆に利用する形で、文化センターっていうところを認知してもらうことができるのではないかと思う。昨年度は少なくともやっていたということであれば、それを目的として文化センターに来た人がどれぐらいいて、どういう形にしたらもっと利用しやすくなってという検討も必要なのではないか。

【事務局】

涼み処（クールスポット）は、熱中症対策の観点で、区施設を外出時の休憩場所として利用いただく取組み。文化センター、図書館、特別出張所等がクールスポットとして開放されている。例えば、涼みに図書館に入ったときに、ふだん手にしない本を手に取ってもらうように誘導するといった取組は可能と考えている。そのような観点でデータは取っていないが、今後検討していきたい。

【委員】

・ せっかくお越しになる機会があるのであれば、文化センターとして、それを積極的にとらえるのかというところを明確にした方が良いと思う。要は、施設の方が、初めての方がクールスポットとして寄ってくれたことを喜ばしく思って接するのか、もしくは、文化センターの利用者以外の方たちが来たときに、あんまり好ましくないと思って接するのかで、マイナスのイメージつくってしまうこともある。行ってみたけど、何か結局行きづらいね、あそこ。もう行かないというように。文化センターとしてクールスポットの取組をどう活用するかというのは、検討しておかないとまずいし、その姿勢を文化センター全体で共通していかないといけない。

【地域力推進部長】

涼み処については、先ほど事務局からお伝えしたとおり、まず、高齢者の方々、熱中症対策で一番危険な状況に陥りやすい層を想定して順次広げていった経緯がある。本年４月に気候変動適応法が改正され、これまでの熱中症警戒アラートに加え、より一層の警戒を要する熱中症特別警戒アラートが新設されたことを受け、区を挙げてその対策に取り組んでいる。涼み処（クールスポット）についても、このために継続して実施する方向。

先ほどのご意見について、確かに、涼み処を目的としておいでいただいた方に、区の施設や施策をご理解いただくという一つの契機にはなる。ただ、施設を訪れる方には色々なニーズがあり、一時的に暑さを回避するためにだけ訪れた方に対し、押しつけにならない配慮も必要。原則として、来ていただいた方に対して、どうせ一時的な滞在だろうといったことで軽視するようなことは当然ないので、施設利用のきっかけになり得るという認識について部内で共有していきたい。

【会長】

そろそろ次の議題に移らねばならない時間ではあるが、質問等あったらお願いしたい。

【委員】

- 文化センターとか、生涯学習センターという名称は、何をやるところなのかあまりはっきりしない感じが大変強い。スポーツセンターの場合にはスポーツをする場所であると。図書館といえば本がある。文化センターといったらメインは何なのかというのが、みんながわかっていないのではないか。そのあたりを新たに考えていかないと、同じ名前でずっとしがみついていても駄目かもしれないという感じはしないでもない。特に、若い人たちが入ってこないから困るというのであれば、やっぱり若い人たちは、文化といった場合にどんなことを考えているのかっていうことも含めて、もう一回見直すという必要があるのではないか。
- それと、もう1点は、施設が古い。トイレが古い、というようなことを考えたときに、アップデートするものは何なのかということも含めて、憩いの広場的にするとか、カルチャーということの明確なテーマを出さないといけない。人間はテーマで行動する。本を読みたい人は図書館、スポーツをしたい人はスポーツセンター、お酒が飲みたい人は酒場、テーマで決まっているので、文化のテーマをもう少し明確にしたほうが良い。

【会長】

入りやすさの問題とか、今発言いただいた件は、先ほど社会教育指導員さんのお話の中でも、発信が足りていないということとも関連があるのではないか。名称はもちろんあれでしょうけども、何をやるところかっていうことの発信が足りてないっていうお話があったと思う。

【委員】

- やはり、ホスピタリティ的な感じがない。

【会長】

私も実は一番それが問題だと思っていて。よその自治体のコミュニティーセンターとか行くと、受付のところで、何しに来たみたいな顔して座っておられて入りづらいということ、割と全国的にあると思っている。発信を強めるって

いうのはあるだろうし、ふらっと立ち寄れるような雰囲気も重要。文化センターは、確かに古いが、かなりフリースペースが広いので、何か仕掛けをすればほっとできる空間も演出することができるのではないかと思う。

本日は、社会教育指導員に来ていただいて地域をコーディネートするという課題について、我々は非常に意識することができた。こういったことについても、適宜、ここで議論していきたい。

最後に、今、地域はコーディネーターだらけだって私はよく言っているが、学校コーディネーターとか、地域福祉コーディネーターとか、生活支援コーディネーターとか、まちづくりコーディネーターであるとか。それは、良いことだと思っている。社会教育指導員として地域をコーディネートするということについて、最も重視していらっしゃることは何か、という質問をしたい。

【社会教育指導員】

大変難しい質問を最後にいただいたが、生涯学習、社会教育において、やはりＳＤＧｓの目標などにもあるが、誰一人取り残さないというところが大切だと思っている。文化センターに敷居が高いと感じる方、文化とか、生涯学習という言葉に取っ付きづらさ、入り込みにくさを感じる方がいるという話も耳にするので、どなたでもどうぞという、ホスピタリティあふれる空間づくりを、またそういった地域づくりに少しでも寄与できればと考えている。

【会長】

それでは、次の議題に移る。議題の４から８について一括して説明いただく。文化センター、図書館、生涯学習センター、それから地域の学びの場の連携イメージ、想定スケジュール等々につきまして、今、今日机上に配付されました資料３に基づいてお願いしたい。

（４）文化センターでの取組案

（５）図書館での取組案

（６）生涯学習センターでの取組案

（７）地域の学びの場の連携イメージ

（８）想定スケジュール

（４）～（８）資料３に基づいて事務局から説明

【会長】

これから議論していただくが、今日は、かなり総括的な話になっているが、

次回これを踏まえた案が出てくるということで良いか。

【事務局】

本日大枠の内容に関して合意いただきましたら、次回の会議は、素案の確認をお願いすることとなる。内容に関して深く協議できるのは、今回が最後となる。次回は、素案を確認いただいた後、特別議論すべき課題があれば協議いただく形となる。

【会長】

そのようなスケジュールの一環として、今日、ここに議題としてあがっている。かなり詳しく説明いただいたので、資料を見ながら議論いただきたい。特にどこからっていうふうにしないが、なるべく満遍なく生涯学習センターと文化センターと図書館について議論いただきたい。

【委員】

- 資料３、１４ページの絵が大田区をイメージした図について、点線で施設、拠点文化センター、学校、文化センター、自治体、自治会とあるが、これは、それぞれの地域ということで良いか。拠点文化センターと文化センターは何が違うか。
- 点線の中に、スポーツ施設や図書館が必ずしも全部入るとは限らないと思うが、スポーツ施設、図書館があって、かつ、地域に生涯学習のできる場所があるという、徒歩圏、生活圏の中にそういう施設が必要だということを言っているので、点線の中を一つの地域と考えると、スポーツ施設、図書館、生涯学習のする場所というのがないと、地域としては考えられない。
- また、生涯学習センターというのは、これは実際に、ちゃんとしたはっきりしたものがなくても、情報集める箱でいいとは思う。一つのところで、シンボルとしていろんなものが集まっているという、見られるという形で施設があることはいいが、これは、機能として集約できているということが分かればいいと思う。どちらかと言えば、拠点ごとにどれだけそういう学習できる機能があるいうことが分かるような絵にしてもらいたい。

【会長】

多分、施設等というのでスポーツ施設等も含めているのかもしれないが、それらもイメージに含めておいた方が良い。

【委員】

・　拠点文化センターの拠点というのは何か。

【事務局】

こちらの図の説明として、区内に１１文化センターあると説明したが、区内を大きく蒲田地域、大森地区、調布地区と分け、それぞれの地区で拠点となる文化センターを設定したいと考えている。その地区の中心となることを想定している。１１の文化センターが同列ということではなく、それぞれの地域に中心となる連絡や調整機能を持つ文化センターを拠点文化センターと表現した。

また、会長から補足いただいたようにスポーツ施設については、施設等の中にまとめている。

【会長】

図書館は特にこの一連の案の中に入っているので、この１４ページの連携図の中にも登場したほうが自然だと思う。生涯学習ということで、スポーツ施設も明示しておいたほうがわかりやすいと思う。

【委員】

・　同じく、地域の学びの場の連携イメージというところで、学校等はどういうことか。学校等が地域の学びの場の一員として入っているが、具体的に学校が、文化センターや自治会・町会と連携するイメージはどのように考えているか。

【事務局】

図書館は既に学校図書館との連携などという形で連携をしているが、文化センターも、例えば地域の学校の生徒さんが文化センターに来て学ぶとか、逆に文化センターの人が出向いて出張の授業をするとか、地域のことを知ってもらうための授業をするとか、そのような連携ができればと思っている。学校は、最初に生涯学習に触れる場所だと思うので、連携をしていきたいと考えている。

【委員】

・　私がこの間聞いた話では、大森の自治会が地域の団体や、中学校を呼んで、大森地区の未来について話し合ったという事例を聞いた。私は実際に参加していないが、そこで、学校からは、生徒会の人や校長先生が出席して、一緒に自治会を中心としてお話、未来について話したとのこと。このよう

な取組が他のところでも広がっていくと良いと思った。

【事務局】

補足として、いわゆるそういうソフト面の連携が中心になるが、もう一つ、ハード面として学校施設（空き教室・校庭）の利用という側面もあるので、その面でも連携先としてとらえている。

【委員】

- 同じく１４ページの表の中で、文化振興協会も連携イメージの中に位置づけられている。文化振興協会としては、例えば、各文化センターなどで色々な活動している団体の皆さんが、年１回、集まって発表するとか、そういう発表の場を提供させていただく施設として利用いただく。それで、今、協会が持っている人脈とか、ツールについて、文化センターで活動する皆さんに紹介して活動に役立てていただくと、そういったことが想定されると思う。
- また、文化振興協会としては、文化団体とか、アーティストなどの情報の受発信については、そこは個人情報の問題があるので、全てというわけにはいかないが、何らかの形で連携・協力ができればいいと思っている。
- 資料３の１４ページで急に文化振興協会という言葉が出てきたので、「おおた生涯学習推進プラン」の中での文化振興協会の位置づけみたいなことを少し説明いただきたい。

【事務局】

「おおた生涯学習推進プラン」の中でも、文化振興協会は生涯学習を推進する団体として、スポーツ協会等とともに位置づけられている。モデルケースとしてそれぞれの施設のことを考えていくときに、文化振興協会について言及はしていないが、それぞれが地域ごとのニーズに応じて関わっていくというイメージを持っている。

【会長】

多分、推進会議、ワークショップでの昨年度からの検討過程を踏まえて、あり方を導き出していくという資料づくりになっているので、素案の段階になれば、体系的に説明されると思う。

【委員】

・　文化センター、生涯学習センターの運営は直営が望ましいと書かれているが、複合施設の中の一部に生涯学習センターが入るのであれば、直営である必要があるか疑問。反対に、田園調布せせらぎ公園の中にある施設は、４つの団体でそれぞれの特徴のある地域コミュニティの団体と、図書館機能を持った団体と、清掃というか、緑を管理する団体４つの連合体でつくったところで運営されていて、それぞれ自分の特徴を生かして、区民にいいサービスを提供している良い事例である。

・　また、洗足区民センターの運営も民間に委託されているが、そこの団体は、その地域の限られた情報だけでなくて、自分の所属しているところから色々なところの情報を得て、様々な楽しい魅力ある講座を作っている。このため、必ずしも直営である必要はないと考える。

【会長】

この点について事務局はどう考えているか。これまでの議論の中から出てきた話ではあると思うが。

【事務局】

これまで議論の中で出てきたことをまとめた形で、事務局案として記載していますが、必ずしもそこにこだわっているということではない。（第４回推進会議を開催している）カムカム新蒲田も生涯学習だけを扱っている施設ではないが、自主事業として生涯学習の講座とかも開催している。こちらも指定管理で行っている。いい面、悪い面、それぞれあるので、必ず直営でないといけないとこちらで足したということではない。

【会長】

その点、結構大きな論点だと思う。特に、社会教育の専門性を確保するという観点からいうとどうなんかとか、あるいは、民間の創意工夫に期待するというような、そういう考え方なのか。その点はいかがか。

【委員】

・　直営かどうかのところで、先ほど、地域学習コーディネートの報告を受けて、昔からその地域で育った住民だからこそ、来館してくる人のニーズや地域の情報を持っているっていうことから、外部から来てもらうよりも、

もともとそこで育ったからこそ持っている力やつながりを生かしていけるのではないかと思った。もちろん一長一短、指定管理のメリットもあるし、地域住民の力、地元から住んでいる人がやるメリットもあると思う。

・ 地域性を重要視するということで、田園調布せせらぎ館の場合は、４社のうち１社が地域コミュニティの団体が入っている。地域の情報を得る方も、直営じゃなくて民間の知恵を出すという、そこと連携した方が良い。地域に密着した形で動いてもらいたいと考えている。

【会長】

田園調布せせらぎ館は、指定管理者の選定委員だったのでよく存じている。地域コミュニティを重視したいからコーディネーター置きますっていう提案をしたので驚いた。指定管理者と言っても、こういう地域集会施設の指定管理者には、おおよそ２種類あるって言ったら単純化しているが、１つは、地元の管理運営委員会が指定管理者になっているケース、1980年代から定番となっている。もう一つは、全国規模でそういう業務を行っている業者に提案してもらうやり方。指定管理者制度を導入して、なおかつ地元密着とすることもできないことはない。指定管理者制度は、どのように指定するかは自治体の自由。副会長から専門的なご意見をお願いしたい。

【副会長】

運営の主体がどうあるべきかというのは確かに大事な問題で、直営もしくは指定管理者だが地域の特色があるところというような考え方も両方あると思う。また、直営だったとしても、運営に住民がかなり大きな部分関わるというやり方もあるかと思う。今、学校ではコミュニティー・スクールっていう形で、学校の運営に地域住民やいろいろな人たちが関わっていくことが進んでいるが、社会教育の領域でもそういうような形で、運営に一定の責任を持って関わっていくっていうような仕組みをつくるということも、地域力を生かして学びの循環を作っていくという、学びの場を利用している方たちが今度は運営に関わるというルートをつくっていくことで、より学びが発展していくということもあると思う。

文化センターにしろ、図書館にしろ、生涯学習センターにしろ、専門的な知見を持つ人を配置するというコメントが書かれていて、今日の社会教育指導員

さんの話と重ね合わせて聞くと、とても大事な観点だと思うと同時に、その専門性っていうのが社会教育に関する専門性っていうことと、地域に関する専門性っていうことを同じ人のところに重ねてもいいと思うし、地域における専門性のところを、例えば地域採用枠みたいな、地域で生活しているっていうことを専門性として捉えて、そういう方に関わってもらう、あるいは、地域の方がボランタリーなり有償ボランタリーなりそういう立場で、サポートするようなものにするか、あるいは支援する立場に関わっていただくっていうところで連携し合って、補完し合うということも可能と思った。

少し今の話からは外れるが、図書館の取組でも、今の図書館の機能をより拡張するような形で積極的な提案が出されていて、とても今日聞いた話と総合して考えると、大事な発展形態だと思ったが、これも恐らく、図書館の職員さんたちの今の専門性に付加していくような部分っていうのが大いにあると思う。その部分の研修、または補完し合う、相談し合えるようなネットワークが重要。そう考えると、生涯学習センターでの取組、生涯学習センターが非常にこう大きいシンボルでもあり、拠点でもあり、バックアップというか、コーディネーター的な機能を果たすというところで、機能も大事だがそういう場があったら、よりそこの発信性が高まっていくという意味では、個人的意見としては、やっぱりその拠点としての空間とともに、施設とともに広がるっていうのがやっぱり望ましいと思った。

１個質問だが、（資料３　P15）想定スケジュールに、試行をまず１館からっていうふうに書いてあるが、今日の話を聞くと、文化センターと図書館と生涯学習センターと連動性が高く、この構造を実現していくっていう一つ重要な要のような気がしているので、そうなると、この試行っていうのは、文化センター、図書館が同じエリアの部分で連携して、生涯学習センターが検討とあるが、何かバックアップはしないとその試行の部分がうまく回らないような気がするので、これがそういうような形でちょっとまずは１館、あるいは１エリア、次に２館、あるいは２エリアっていう形で進行していくっていうふうに捉えていいのかっていうところを伺いたい。

【事務局】

今いただいた意見のとおりで、試行に当たっては、図書館との連携というと

ころで同じ地域で考えている。具体的に決まったスケジュールとして固定しているわけではないので、参考にさせていただいて、これから進められればと考えている。

バックアップという面に関しては、生涯学習センターって書いてある部分の機能を本庁の課のほうで担っていくということを想定している。

【会長】

バックアップとは、コーディネーターのコーディネーターみたいなことか。その感覚、非常に重要と思っている。福祉の世界の生活支援コーディネーターも一層と二層がある。一層が自治体全体で、最前線が二層のコーディネーターとなっている。それと同じようなイメージで、生涯学習センターに一層のコーディネーターがいて、その人も地域で実践することがあって、一緒に二層のコーディネーター（各文化センターを訪問している社会教育指導員）と相談しながら進めていくという構造だとソフト的には良いと思う。場所について、どうでもよいといった意見もあり、やはり場所もそれなりにきちっとしてほしいという意見もあった。その方向で実現していただきたいということはあるが、現状でもやれることはたくさんあると思う。

それから、運営については、副会長にいろいろ言っていただいて、大変勉強になった。指定管理者制度を選択したとしても、施設の運営委員会のような評議機関を設けて、そこの意見を聞きながら運営するっていうやり方もあると思う。横浜の各区に市民活動支援センターがあるが、そこもやり方様々で指定管理者を選定しているところもあるが、私が住んでいる地域のセンターは直営だが、市民委員会みたいなものがあって、そこ割といい機能をしている。だから、直営で利用者協議会、連絡協議会を活性化するっていう方向性と、指定管理者でも地元の管理運営委員会的なものに指定していくというやり方、もしくは全国規模で展開している事業者から提案を受けて、というやり方色々ある。要は、区民ニーズに合った創意工夫のある文化センターの運営形態を選択する、そういうトーンで素案を書かれると良いと思う。

【事務局】

文化センター、生涯学習センターを直営にという意見をいただいた背景として、指定管理の場合、指定期間が決まっていて、その期間はもちろん仕様では

定めるが、ある程度指定管理者の自主運営にも期待できるので、指定管理者のカラーがどうしても、逆に期待する部分もあるが、出てくる。その場合に、指定期間が終わって別の指定管理者になり、違うカラーが出たとき、利用される方がある程度継続的に利用していく中で、運営が変わると利用者と運営のほうを見ずにというところでの御説明をさせていただいたところの中で、むしろ、ずっと直営のほうがいいのではないかっていうところが背景としてあった。ただそれも、この間の御議論のとおり、仕様に定めることもできるし、やりようなので、一概に直営がいい、悪い、指定管理がいい、悪いというよりは、むしろどういう形で運営するのが望ましいというよう表記で、それが固まればおのずと、それに合うような形で区のほうで考えるという表現の仕方もできると考えている。

【会長】

指定管理者制度は自治体側の意向でいかようにもできるようになっていて、例えば、横浜市の地域ケアプラザという包括支援センターは指定管理者制度だが、原則として変えないという方針にしている。５年経っても、よほどのことをやっていなければ、次の期も指定管理者を変えないというので、変えた例を知らない。

また、包括支援センターは、指定管理者であろうが直営であろうが設置規制がある。社会福祉士を置くとか、そういう縛りは当然して良いわけで、文化センターに指定管理者制度を入れたとしても、きちんと資格のある社会教育指導員を配置すべしとか、そういうことは可能である。区民ニーズに合ったセンターにしてくっていうことを大きなしるべにして、管理運営形態も考えていくということで良いと思う。

【委員】

- 形態は別として、地域の歴史・文化が継続できるような仕組みづくりという形で、職員も２年か３年交代でころころ変わるから引き継がれないので、ずっと継続させるには地域の人しかないと思うが、地域の歴史・文化が残る仕組みづくりということでやっていただきたい。

【会長】

重要なキーワードを分かりやすく教えていただいた。次の推進会議で素案が

出てくるので、今の議論の雰囲気が反映された内容となることを期待したい。

他に意見がなければ、本日の議事を終了し、進行を事務局に戻す。

3　閉会

【事務局】

次回、第５回推進会議は、１０月３０日水曜日１４時からを予定している。会場などについて、改めて通知する。９月ぐらいには素案を委員の皆様に送付する。それに対し意見をいただき、それらを反映させたものを１０月の会議で協議いただけるよう準備する。本日の協議内容について、追加の意見等あれば、意見書をお送りいただきたい。以上をもって閉会とする。

4　委員からの追加意見

地域の学びの場の基本的な役割が３つに分類されていたが、その役割が果たされるためには、各施設への信頼が前提にあると考える。地域住民が文化センターや生涯学習センター等の施設に足を運び、施設等が３つの役割を果たすことで、住民の学びを支援することにつながる。支援につなげるためには、はじめの足を運んでもらう段階が要になる。社会教育指導員の報告から、施設に入ってきた人に声をかけたり、相談会を開いて確実にその悩みを聞いたりする等、住民との関係構築が住民の施設訪問につながると思われる。そのため、３つの役割の前提として、施設に住民と信頼関係を築く役割がある。この点があまり言及されていなかったため、もう少し議論した方が良いと感じた。

以上